

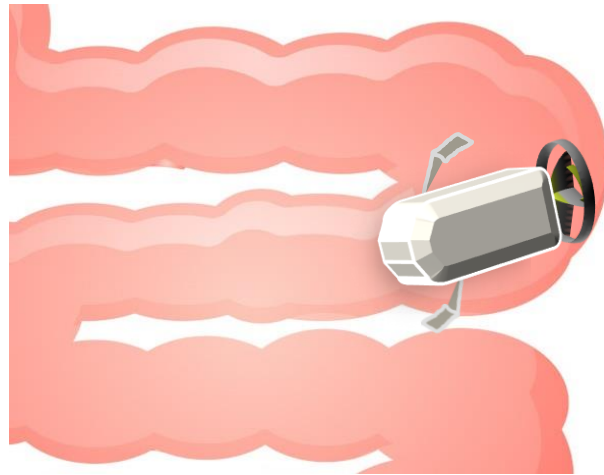
能動自立型カプセル内視鏡の開発

医療・バイオ

調査研究代表：筑波大学 大河内信弘

産総研代表者：エレクトロニクス製造領域集積マイクロシステム研究センター 魯健

・現状のカプセル内視鏡は消化器官を自然に通過するにまかせているため、任意の場所に任意の時間滞留して必要な画像取得をすることが困難である。本研究では必要な場所での滞留技術と位置測定に関する技術開発を行う。



位置センシングおよびシステム化

カプセル滞留技術



エネルギー供給技術



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

医療動物実験

ORテック社
システム開発および事業化検討



筑波大学
University of Tsukuba

・カプセル内視鏡の滞留や移動は金属アクチュエータが検討されているが消費電力が大きく、低侵襲であるかどうか不明である。これらの課題を克服するのが課題である。

連絡先：

筑波大学消化器外科 029-853-3221
大河内信弘 nokochi@mitochuo-hsp.or.jp
倉田昌直 mkurata@md.tsukuba.ac.jp



筑波大学
University of Tsukuba

